

第5回 あかしあ小校区地域内交通検討会 開催報告

あかしあ台小校区まち協

1. 日時 令和3年6月12日(土) 13:45~16:00

2. 場所 オンライン会議(ZOOM)

3. 参加者(敬称略)

【地域】個人PC・スマホ 9名：山岡、北野一恵、坂井和子、達家、奥村、内布、川元、丸本、長谷川
 コミュニティハウススタジオ 8名：外間和子(iPad)、中村栄子、畑、榊本公子、塩見、谷渕、酒井、片岡(PC)
 ……()はスタジオでZOOM接続

欠席：奥田、堀江、島崎、河本和子、古川裕子、岡村

【(社)グローバル交流推進機構】個人PC 1名：田中アドバイザー

【三田市交通まちづくり課】個人PC 4名：高寺、北村、大脇、山内

4. 概要

(1) オンライン会議

今回の会議も、緊急事態宣言中であり、オンライン形式で行った。予め通知してあったZOOMアカウントに入れないトラブル(アカウントに入るときにパスワードを6回間違えロックがかかってしまった)になり、開始時間が15分程度遅れてしまったが、参加者の皆さん方のご協力のおかげで乗り切ることができた。個人PC/スマホ参加14名、コミハウススタジオ参加8名(内1名会場内でZOOMに接続)。



オンライン ZOOM 会議パソコン画面

(2) 交通行動アンケート結果の報告 地域から長谷川、市から高寺が報告

i) アンケートの概要

回収率57.5%。回収数1,754世帯

ii) 回収世帯の状況

No	項目	ポイント
1	住所別分布	*回収世帯の比率は、居住世帯の比率とほぼ同じ。
2	世帯人数別分布	*2人世帯が最も多い(41%)。
3	世帯構成別分布	*夫婦2人世帯(38%)と子どもと同居世帯(38%)が最も多い。
4	世帯内にある車	*1台世帯が最も多い(62%)。
5	最寄りのバス停までの距離	*徒歩10分以内世帯が98%を占める。
6	最寄りの鉄道駅までの距離	*1・2・3丁目とさくら坂の世帯は徒歩20分以内が約70%、4・5丁目の世帯は約85%を占める。このデータはウティタyn商店街まで徒歩で行くのにかかる時間と読み換えることができる。 <u>商店街まで行くのに20分以上かかる方が地域全体で22%おられることが分かる。</u>

iii) 回答者の属性

No	項目	Aの方 (移動の多い方)	Bの方 (移動の必要な高齢者(65歳以上))
1	世帯内の関係	*配偶者が最も多い。	*世帯主が最も多い。
2	性別	*女性が多い。	*男女同じ程度。
3	年齢	*各年代20%前後でバランス良い。	*65～74歳代が大半(62%)。
4	職業	*働いている方が51%。	*働いていない方が75%。
5	外出	*殆ど外出できる(99%)。	*外出できる方が殆ど(92%)、一方、 <u>1人で外出できない方が7%おられる。</u>

iv) 自力での移動

No	項目	Aの方 (移動の多い方)	Bの方 (移動の必要な高齢者(65歳以上))
1	自動車による移動	* <u>自動車を運転されない方19%おられる。</u>	* <u>自動車を運転されない方34%おられる。</u>
2	運転免許の返納	* <u>将来、免許を持っておられない方が41%になる可能性ある。</u>	* <u>将来、免許を持っておられない方が67%になる可能性ある。</u>
3	自転車による移動	* <u>自転車を使われない方49%もおられる。</u>	* <u>自転車を使われない方63%もおられる。</u>
4	徒歩による移動	* <u>20分までしか歩けない方が32%おられる。</u>	* <u>20分までしか歩けない方が30%おられる。</u>

v) 主な外出先への移動 注：複数回答の場合、断りなければ票数割合（対回答者数）を示す。

No	項目	Aの方 (移動の多い方)	Bの方 (移動の必要な高齢者(65歳以上))
1	良く行く所 (複数回答2つまで)	—	—
-1	買い物	*票数構成比 南WT：63%、WT中央：30%と <u>近場が93%占める。</u> *特定店舗の票数割合（対回答者数） マルチ・イオン三田に1/2、オアシスに1/3、万代に1/4が行かれている。	*票数構成比 Aと同様、 <u>近場が90%占める。</u> *特定店舗の票数割合（対回答者数） マルチ・イオン三田・オアシスに1/4が行かれている。
-2	通院	*票数構成比 近場（南WT・WT中央）：29%に対し、近場以外（WT・カルチャー内（南WT・WT中央除く）：50%、三田市街地：11%、フラータウン：6%、神戸北2%他）：71%と <u>広範囲に移動されている。</u> *特定施設の票数割合は低い。最も多い市民病院で35%ほど。	*票数構成比 近場（南WT・WT中央）：26%に対し、近場以外（WT・カルチャー内（南WT・WT中央除く）、三田市街地、フラータウン、神戸北他）：74%とAの方と同様に <u>広範囲に移動されている。</u> *特定施設の票数割合は低い。最も多い市民病院で25%ほど。
-3	愉しみ	*通院と同様、 <u>広範囲に移動</u> されている。	* <u>同左</u>
-4	その他	*通院・愉しみと同様、 <u>広範囲に移動</u> されている。	* <u>同左</u>
2	主な移動手段 (複数回答4つまで)	*自家用車：80%、徒歩：64%が多い。 <u>公共交通：15%は余り使われていない。</u> 自転車：30%も意外と少ない。	*自家用車：62%、徒歩：68%が多い。 <u>Aと較べると自家用車：62%と自転車：19%が少なくなり、公共交通：26%・送迎：20%が多くなっている。</u>
3	外出日数	*週5日：56%が最も多い。	*週5日：38%、週3～4日：32%が多い。 <u>Aと較べると週5日が少なくなっている。</u>
4	移動の満足度	* <u>満足とやや満足合計で86%。</u> …現状の移動手段に対する満足度高い。一方で、 <u>不満足（やや不満足含む）な方が幾らかおられる。</u> * <u>不満足さは公共交通利用の多さと関係があるように見える。</u>	* <u>満足とやや満足合計で79%。</u> …現状の移動手段に対する満足度はAと同様にかなり高い。 <u>不満足（やや不満足含む）な方がAより多くなっている。</u> * <u>不満足さの公共交通利用との関係は同じような関係が見られる。</u>

No	項目	Aの方 (移動の多い方)	Bの方 (移動の必要な高齢者(65歳以上))
5	お困りごと (複数回答3つまで)	—	—
-1	自家用車	*維持費高い:62%が最も多い。	*同様に維持費高い:58%が最も多い。Aと較べると <u>運転ミス不安:37%が高くなる。</u>
-2	自転車	* <u>悪天時の移動:64%、大きな荷物運搬54%、坂:53%が多い。</u>	* <u>同様に3つの困り事が多い。Aと較べると体力不安:19%が高くなる。</u>
-3	徒歩	* <u>大きな荷物運搬61%、悪天時の移動:58%、坂:45%が多い。</u>	* <u>同様に3つの困り事が多い。Aと較べると体力不安:43%が高くなる。</u>
-4	公共交通	* <u>便数少ない:44%、運賃高い(鉄道・路線バス:44%が多い。</u>	* <u>同様に2つの困り事が多い。Aと較べると目的地まで行く路線ない:30%、運賃高い(タクシー):23%が高くなる。</u>
-5	送迎(家族・知人の運転)	* <u>行きたいときに行けない:65%、気を遣う:62%が多い。</u>	* <u>同様に2つの困り事が多い。</u>

vi) 将来を見据えてなすべきこと

No	項目	ポイント
1	自家用車がないときお困りになること(複数回答2つまで)	* <u>買い物:51%が最も高い。次いで、重い又は大きい荷物の運搬:40%、通院:36%が高い。</u> 地区別にみると、買い物については、1・2・3丁目とさくら坂のニーズが4・5丁目よりも高い。又、重い又は大きい荷物の運搬については、1丁目のニーズが高い。
2	自家用車に代えて利用したい移動手段(複数回答3つまで)	* <u>公共交通利便性向上(運賃):57%が最も高い。次いで、公共交通利便性向上(運賃以外):54%、電動自転車:37%が高い。</u> 地区別にみると、公共交通利便性向上については、運賃及び運賃以外ともに各地区の差異があまり見られない。又、電動自転車については、さくら坂のニーズが他の地区と較べると低い。
3	公共交通に対する情報提供(複数回答3つまで)	* <u>広報誌(三田市、まち協等):78%が最も高い。次いで、インターネット(三田市HP企業HP):59%が高い。</u> 地区別の差異は殆どない。

viii) 自由意見

No	項目	ポイント
1	全般的事項	* <u>最も多かったのは、「バス路線関連:30%」に関すること。</u> 次いで、「他の手段:13%(カーシェア、予約型タクシー、小型バス(荷物だけでも)、乗合サービス、自動運転タクシーなど)」、「道路状況:12%(歩道の凸凹、路上駐車、該当など)」に関する提案。
2	バス路線	*最も多かったのは、「巡回・循環バス:51%(ウッディタウン内又は三田駅⇄ウッディタウン)」、次いで、「三田駅・福祉センター方面:24%」。その他:25%(市立図書館、フラワータウン、三宮行、キルビール工場方面など)。

(3) アンケートに関する意見交換

- ・高齢者層を65歳以上と捉えているが、健康年齢の視点から交通問題に支障を感じておられるのは75歳以上ではないかと思う。高齢者層を75歳以上と捉えて再集計することは可能か。
- ・・・・可能。Excel関数を使って75歳以上を抽出するように式を建てて計算すればできる。
- ・「満足度」と「車がなかったら困ること」について、年齢の増加とともにどう変わっていくのか分析できないか。今は他人事とっておられるところがある。そのようなデータがあると何歳ぐらいになるとどうなるか、自分の問題として捉えることが出来る。
- ・・・・良いアイデアを頂いた。検討してみたい。「年齢」と「満足度等」との典型的なクロス分析の形である。
- ・移動の問題を分析するには、どのくらいの移動距離を対象にするのかを明確にしておくことが

必要である。地図を使って表示することなどを考えてはどうか。又、運賃問題については、利用者がどのくらい負担できるか把握しておく必要がある。

・・・地図表示については検討したい。運賃負担について、今回は新しい移動手段の在り方を見出すのに主眼をおき調査しなかった。次のステップで考えたい。

(4) 今後の進め方に関する意見交換

・アンケートの回収率高かった。プロジェクトに対する関心の高さが伺われる。先に話しのあった年齢との関係性の分析については是非見て見たい。データから新たに気付くこともあると思う。有意義なアンケートであった。今後については、バスに乗ったり、バスの自動運転の体験をしたことなどがキーワードになると思う。又、料金面については、様々な工夫の余地がある。

999の上手な活用、民と官の連携など。大阪行きが増は便利だ。あかしあ台も通過して欲しい。

・ウッドタウン内のバス運行の状況、地域内交通先進地の視察、アンケートなど様々な観点から検討を進めてきた。今は満足ということであったとしても5年経ったら変わるし心配なことも見えてきた。これで、終わりというのはいかがでしょうか。今の内に下準備ということで、もうひと押しし対策実現まで進めてはどうか。

・自家用車の免許返納が進み、将来、高齢者層で免許のない方がかなり増大することが明らかになった。長期的視点から対策を考えていく必要性を感じた。短期的には、路線バスの乗換問題

(WT内は乗換必要のところ多い、その都度料金支払いなど)、料金問題(定額制の導入など)、路線バスのサービス問題(乗継料金割引の周知など)他多くの課題のあることも分かった。グループを分け、個々のテーマについて深堀していく取り組みが必要と思う。

・公共交通(路線バス)を使う地域ということもあって、改善要望が結構な割合である。具体化は事業者主体なので事業者とのコミュニケーションが必要になる。事業者にとってもニーズを知りたいはず。一緒にやっていくことが可能と思う。短期的に改善すべき事項としては、乗り継ぎの割引、昼間の時間帯の乗り継ぎ時刻調整、バス停での乗り継ぎ案内サービスの向上など。又、数は少ないがバス停が遠くて既存のバス路線にアクセスするのが難しい方が一定数居られる。今のバスでは対応できない。福祉的対応や新しいモードの移動手段の導入が必要となる。高齢化が進むにつれてニーズも高くなる。具体化に当たっては、関係者とともに当事者も入って小人数のグループによる会議を行い、その結果を全体の会議で共有するといった取り組みが有効と思う。福祉の方にも入ってもらうことも必要である。

・普通の日常的な移動と特別な年数回程度の移動を分類して、それぞれの困り事について整理していくことが必要ではないか。それにより、日常的に安心して暮らせる交通移動の形、特別の場合に対応できる交通移動の形が見えてきて、分かり易い地域内交通形態の構築が可能になると思う。

・地域内交通の検討については、これまで調査を中心にやってきた。アンケートもとりまとめた。しかし、課題はみえたものの何も解決に至ったわけではない。このままでは終われない。個人でできることもある。神姫バスに路線バスの見直しをしてもらうこともある。41番ルートの終点をゆり中→WT中央に変更する(簡単なこと?)や999の定着(行政負担も入れては?)といったことなど更に一步踏み込んだところまで引き続き検討が必要と思う。

・神姫バスは、高齢化の進展を踏まえバス運行について、新三田起点運行→WT循環に転換する考えを持っておられると聞いている。神姫バスのビジネスプランを確認する必要がある。どんな考え方で、どういうスケジュールでやるのかなど。そのためにも、まずは、アンケートについて

の神姫バスとの意見交換会をすることが必要ではないか。

・神姫バスでは、三田地区をバス運行事業のモデル地区と位置付けられている。神姫バスは聞く耳をもっておられる。話し合いを是非申し入れて欲しい。路線バスの利便性を高めるための面白いアイデアも出てくるのが期待される。民・官・地域の協働事業地区として、全国バス事業のモデル地区ともなり得る。国レベルの補助金の活用も可能と思われる。

・今回の調査は、かなりしっかりしたものである。アンケートの配布・回収において効率的でもあった。クロス分析のアイデアもあり更に興味深い知見が得られる可能性も出てきている。今後については、更に突っ込んだ取り組みが望まれる。地区で高齢化率がかなり異なる。ここに着目して、地区別に違いが分かるよう分析を進めることが考えられる。その際、テーマごとにグループ単位でまとめて行くのが有効と思われる。その上で、全体会議においてグループからの報告にもとづいて意見交換して進めていく形が良いのではないか。

・アンケートは体系的に調査された。多くの知見が得られた。今後は、これらを基にして、テーマを抽出し具体的な対策のアイデアを出して改善していくのが良いと思う。今後の検討に参加できる。なお、WTだけでなく他の地域とのバランスも考えて行く必要があるのではないか。話のあったバス事業者との意見交換は有意義だと思う。

・まだまだやることのあることが良く分った。もう少し詰めていって頂けるとありがたい。巡回バスはバス会社の判断でできるというようなことも聞いた。バス会社との話し合いを進めて是非実現して頂きたい。交通行動のデータを深めると共に出来ることを並行して実現して欲しい。

・地域内交通については、引き続き検討を進めることが確認された。体制については、今回をもって引かれる方も居られるので個々に意向確認し再編成する方向が確認された。

・アンケートで貴重なデータが集まった。今後、しっかりクロス集計やっていくことが必要である。この取りまとめ期間が幾らか必要でもあるし組織再編もあるので、2～3か月くらいの調整期間をおいて再開してはどうか。地域内検討会の組織を再編しても、今年度締結している協定書はまち協と締結されているので、年度末までの期間であれば、これまで通り市と地域とが連携してやっていくことができる。

・今後の進め方としては、①アンケートの最終報告取りまとめ（期限8月末）、②小グループ検討体制の調整（9月末）、③アンケート報告会&神姫バスとの意見交換会開催（9月頃）、④次期地域内検討会開催（10月～3月）。以上確認した。

・あかしあ台の取組みは、現段階ではそんなに困っていないが将来を見据えて準備して行こうということである。見本となるような取り組みになることを期待する。

（5）今後の予定

今後については、下記事項の検討を進めて、9月に、アンケートの最終報告会&神姫バスとの意見交換会を開催し、引き続き、次期検討会を10～3月に期間で再開することで進める。

①アンケートの最終報告取りまとめ（期限8月末）

②小グループ検討体制の調整（期限9月末）

③アンケート報告会&神姫バスとの意見交換会準備（開催9月頃）

④次期地域内検討会準備（開催10月～3月）。